

キャラクター名  
白井 恭吾

プレイヤー名

シンドローム	キュマイラ		ワークス	ヒーローA	カヴァー	駆け出しヒーロー
	ハヌマーン					
オプション			年齢	17	性別	男
覚醒	生誕	衝動	恐怖	初期侵食率	38	%
出自	安定した家庭	経験	憧れのヒーロー	邂逅	自身	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	41
肉体	4	1	0	5		10	行動値	15
感覚	1		0			1	(非装備時)	15
精神	1		0			1	戦闘移動	20
社会	2		0			2	全力移動	40

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:ヒーロー	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
Impact Drive		0	侵 6	+24		単体のみ 暴走状態を付与 Maximum時、攻撃力+32
Impact ready		0	2	+18		D:羅刹+エアロドライブ
Impact ready...『Maximum』		0	2d10+2	+20		D:羅刹+エアロドライブ+巨獣の爪牙 メジャー二回 制限120%
Impact!!!	白兵	10r+1	8			ガード不可 装甲無視 C値-8 攻撃力-4

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ヒーローズクロス	
カテゴリ:ルーキー	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
D:羅刹	P	N		
白井 鏡花	P 慕情	N 不安		
パラディン	P 憧憬	N 隔意		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
巨獣の爪牙	1	2d10	マイナー	至近	自身	自動	120	
効果: メジャーアクションを二回								
ターゲットロック	3	3	セットアップ	視界	単体	自動		
効果: 攻撃+Lv*3 単体攻撃のみ								
一閃	1	2	メジャー	武器	-	対決		
効果: 戦闘移動を行う 離脱不可								
エアロドライブ	5	2	マイナー	至近	自身	自動成功		
効果: 素手の攻撃力 Lv+5 命中-2								
浸透撃	3	2	メジャー	武器	単体	対決		
効果: ガード不可 シナリオLv回								
攻性変色	3	3	セットアップ	視界	単体	自動成功	リミット	
効果: 攻撃力+Lv*5 暴走を付与								
先手必勝	4	-	常時	至近	自身	自動成功		
効果: 行動値 Lv*3								
マシラの如く	3	5	メジャー	-	単体	対決	80	
効果: 攻撃力 +Lv*10 ダイス-5個								
コンセントレイト:ハヌマーン	2	2	メジャー	-	-	-		
効果: C値-Lv(下限7)								
吠え猛る爪	1	2	メジャー	武器	-	対決		
効果: 装甲無視 攻撃力[-5+Lv]								
	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

うすい きょうすけ。生まれついてより体質的に筋肉量が多く。彼を取り上げた医師が発した最初の言葉は「重っ」だった。体重を測るために体重計にかけると8,793g、平均的な新生児のおおよそ三倍の重さを持っていた。彼の体質の名前は『超人体質』。正式名称を『ミオスタチン関連筋肉肥大』という、オーヴァード時代以前には世界で百数例、以後でも数百例しか挙げられてない稀有な体質だ。この体質の人間は筋肉が異常発達し、その力は一生減衰することなく、まるで映画の超人のような力は成長とともに強化していく。普通の人間でありながらこの体質の人間はキュマイラシンドロームをもつオーヴァードを軽く凌駕する。

彼は幸か不幸か「超人」であり「オーヴァード」だった。肥大化するはずの筋肉は内にレネゲイドの影響で絹を紡ぐように繊り重なり合い、その脅威的な力を扱うにはあまりにも細い体のままだった。そして成長を続けた筋肉は金剛をも軽く凌駕するほどの硬度になり、力を振るえば鋼鉄を舐めるように砕け散らす。

そんな彼の幼少期は酷いものだった。力を制御できないまま生活をつづける彼が触れたものは全て砕け、友人はおろか会話すらしてくれる者は現れなかった。両親はそんな息子を心配し、励ましたが彼は心を閉ざし、奥底へ自分をしまいこんでしまった。

…彼を闇から救いあげたのはテレビで中継されていたあるヒーローのである。そのヒーローの名は『パラディン』。当時駆け出しのヒーローである、今の伝説の姿だった。強大な悪意の力をボロボロになりながら一身に受け、何度も倒され、それでも何度も立ち上がり人々を救う姿は彼に勇気を与えた。夕飯によんでも降りてこなかった彼を呼びに母が部屋を訪れると食い入るように見る彼を見かける。母が声をかけると、彼は涙で目を晴らしながら母にこう告げる。

「みんなは僕を悪魔や妖怪だという。逃げるだけでなく面白がって石を投げられたりしたこともある。だけど、だけどお母さん、僕はそれでもヒーローになりたいんだ。こんな力を持った僕でも、誰かを護れるようなヒーローに。どんな困難にも笑顔で立ち向かう、そんなヒーローに僕も、なれるかな。」

そこから、彼はヒーローを目指すようになる。